

- 問1 岩倉使節団には、将来の日本を担う人材を育成するために多くの留学生が同行した。この時、当時わずか6歳で同行し、後に女子英学塾（現在の津田塾大学）を創立するなど日本の女子教育の発展に貢献した人物は誰か。 （2017年 千葉県公立入試 類似）
- 樋口一葉
 - 平塚らいてう
 - 与謝野晶子
 - 津田梅子
- 問2 19世紀後半、日本は欧米列強に対抗するために近代化を急ぎましたが、その過程で起こった出来事の説明として、正しい背景や内容を述べているものはどれですか。 （2019年 埼玉県公立入試 類似）
- 西南戦争は、岩倉使節団が帰国する前に、政府を主導していた大久保利通らが中心となって起こした農民による一揆である。
 - 日朝修好条規は、江戸時代の鎖国体制を維持するために、朝鮮側からの強い要望によって結ばれた対等な内容の条約である。
 - 岩倉使節団は、欧米諸国の進んだ制度や文化の調査、および幕末に結ばれた不平等条約の改正に向けた予備交渉を主な目的として派遣された。
 - 薩英戦争は、明治政府が樹立された後に、イギリスに対して条約改正を強く迫るために薩摩藩が独自に引き起こした戦争である。
- 問3 明治政府は欧米諸国に対抗できる近代国家をつくるため、西洋の文化や制度を積極的に導入しました。これにより、まげを落として洋服を着たり、パンや牛肉を食べたりするなど、西洋風の生活様式が広まった風潮を何といいますか。 （2022年 青森県公立入試 類似）
- 版籍奉還
 - 殖産興業
 - 富国強兵
 - 文明開化
- 問4 明治時代に発行された「地券」と呼ばれる資料には、土地の面積、所有者の氏名のほか、土地の価格である「地価」や、それに対する「税率」が記載されていました。このような仕組みが導入された結果、当時の社会に与えた影響について述べた文として正しいものを、次のうちから選びなさい。 （2019年 佐賀県公立入試 類似）
- 地券を持つ者には参政権が与えられたため、すべての農民が平等に政治に参加できるようになった
 - 土地の所有権が公的に認められる一方で、地租が重かったため、土地を離れたり手放したりする農民も現れた
 - 地価が市場価格に連動して毎年変動したため、農民は将来の納税額を予測することが困難になった
 - 税率が収穫高の3%という非常に低い水準に設定されたため、多くの農民の生活は劇的に豊かになった
- 問5 明治政府が地租改正において、納税の方法を「収穫された米」から「現金」による納入へと変更した主な目的は何ですか。当時の社会情勢や政府の意図をふまえて説明したものを選びなさい。 （2022年 大阪府公立入試 類似）
- 作物の作柄や米の販売価格の変動に左右されず、政府が安定した予算を編成できるようにするため
 - 土地を売買することを禁止していた江戸時代の制度を維持し、農民が土地を離れないようにするため
 - 農村での現金流通を促進することで、農民が自力で新しい農業機械や肥料を自由に購入できるようにするため
 - 地価の3%という税率が従来より大幅に低かったため、農民の負担を軽減して不満を抑えるため
- 問6 明治維新期に行われた新政府による改革の一つに「地租改正」があります。この制度の内容について正しく述べたものはどれですか。 （2017年 秋田県公立入試 類似）
- 土地の面積を基準とし、実際に収穫された米の量に応じた額を、農民に米で納めさせた。
 - 満6歳以上の男女に教育を受けさせる制度を整え、その費用を土地の面積に応じて徴収した。
 - 全国の藩を廃止して府と県を置き、各地域の農民から直接、一律の金額を徴収した。
 - 土地の価格である地価を基準とし、土地の所有者である地主に、地租を現金で納めさせた。
- 問7 明治政府が発行した「地券」という書面において、ある土地の価格が「100円」と記載されている場合、その所有者が納めるべき税額は「3円」と設定されていました。このような、土地の価値を基準とした課税方法へ変更した最大の目的として、最も適切なものはどれですか。 （2021年 茨城県公立入試 類似）
- 作物の収穫量や米の価格変動に左右されず、政府の予算を安定させるため
 - 土地の売買を禁止し、すべての土地を国営にする準備を整えるため
 - 米の価格を高く維持することで、農村の景気を回復させるため
 - 小作人の負担を減らし、自作農を増やすことで農業を近代化するため
- 問8 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり」という有名な一節から始まり、人は生まれながらに平等であると述べる一方で、現実の社会において賢い人と愚かな人、貧しい人と富める人の差が生じるのは、学問をしたかしないかによるものであると説いた明治時代の著作は何ですか。 （2024年 福島県公立入試 類似）
- 『西洋事情』
 - 『学問のすゝめ』
 - 『民約訳解』
 - 『文明論之概略』
- 問9 明治政府が、租税の納入方法を従来の米から現金へと変更し、税率を地価に基づき固定した主な目的として、最も適切なものはどれですか。 （2019年 愛媛県公立入試 類似）
- 豊作や不作による収穫量の変動に関わらず、政府が安定した税収を確保するため。
 - 土地の所有権を政府に一本化し、農民から土地を回収しやすくするため。
 - 農村での貨幣経済の浸透を抑え、農民が米の生産に専念できるようにするため。
 - 米の市場価格を安定させ、都市部で働く労働者の生活を守るため。
- 問10 1873年（明治6年）に明治政府が実施した地租改正について、従来の年貢の仕組みを廃止し、地券の調査を完了させた際に出された法令の内容として正しいものはどれですか。課税の基準、税率、納税方法の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 （2022年 大阪府公立入試 類似）
- 土地の価格である地価を基準とし、その3%にあたる額を米で納める
 - 土地の価格である地価を基準とし、その3%にあたる額を現金で納める
 - その年の収穫高を基準とし、その3%にあたる額を現金で納める
 - その年の収穫高を基準とし、その3%にあたる額を米で納める
- 問11 1873年に明治政府が実施した地租改正において、税の算定基準と納入方法の組み合わせとして正しいものはどれですか。 （2014年 愛媛県公立入試 類似）
- 土地の価格である地価を基準とし、貨幣で納める
 - 毎年の収穫高を基準とし、貨幣で納める
 - 毎年の収穫高を基準とし、米で納める
 - 土地の面積を基準とし、米で納める
- 問12 明治政府が財政を安定させるために実施した地租改正について、それまでの江戸時代の年貢の納め方からどのように変更されたか、正しい説明を選びなさい。 （2020年 大分県公立入試 類似）
- 土地の面積に応じた分量を労働で納める方法から、収穫高を基準としてその3%を現金で納める方法に変更された。
 - 一律の金額を村ごとに米で納める方法から、個人の所得を基準としてその現金を納める方法に変更された。
 - 収穫高に応じた分量を現金で納める方法から、地価を基準としてその3%を米で納める方法に変更された。
 - 収穫高に応じた分量を米で納める方法から、地価を基準としてその3%を現金で納める方法に変更された。